

理工系大学生の海外経験・留学に関する意識調査 —群馬大学留学調査（3）からの報告—

園 田 智 子・野 田 岳 人・舩 橋 瑞 貴

要 旨

本調査報告は、2016年に群馬大学に在学する学部1年生を対象に、海外経験・留学に関する意識調査を実施し、その中で特に理工系大学生に関するデータについて結果を分析したものである。その結果、回答者の約50%が留学に対して積極的な意識を持っており、そのうち約半数が1か月程度の語学研修を希望していることがわかった。留学先希望国については、上位10カ国がすべて欧米諸国であり、留学に関しては欧米中心の考え方が根強いこと、さらに、群馬大学理工系大学生の留学阻害要因は、物理的な側面としての「経済的負担」、能力的な側面としての「語学力の不足」、そして心理的な側面としての「海外生活への不安」の3つであることが明らかになった。これらの結果をふまえ、理工系大学生の海外経験・留学について、必要とされている支援策についても考察した。

【キーワード】 海外留学 意識調査 経済問題 欧米志向 制度的支援

1. はじめに

1. 1. 調査研究の背景

近年、大学生の国際化に関する政策が政府によって次々と示されており、特に、ここ数年は、グローバル人材育成推進事業（2012）、官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム（2013）、スーパーグローバル大学創成支援事業（2014）と、新しい事業が次々と打ち出されている。それに伴い、大学における日本人学生のグローバル人材育成については喫緊の課題となり、海外留学に関する具体的な支援や取り組みも各大学で積極的に行われるようになってきている。また、高等教育機関や関連の機関において日本人学生の海外志向や留学に関する調査研究が様々に行われてきている。

各大学単独の大学生を対象にした留学意識調査としては、滋賀大学の森他（2012）や、奥山（2015）、堀田他（2005）などがある。奥山（2015）は、神戸大学の教育系の大学1年生109名へのアンケート調査から、英語能力の高さと反比例した教育系の学生の留学希望の低さを指摘し、教員資格

取得を念頭に置いた教育系大学生が在学中に留学する難しさについて言及している。

本研究に共通する理工学系大学生を対象とした調査には、旧帝大系7大学と東京工業大学の8大学の工学系大学生・大学院生8399人に対し、2009年に実施された「日本人学生の留学に関する意識調査（8大学工学教育プログラム・グローバル化推進委員会第3部会）」（以下「8大学」）がある。このアンケート調査の結果、調査対象者の約半数の学生が留学を希望していることや、6割近くが1年以内の語学留学を希望していること、行きたい留学先として85%が欧米を希望していることなど、工学系の大学生、大学院生の留学に関する詳細な指向が明らかになった^{註1}。しかしながら、群馬大学は、これらの「8大学」とは大学の環境、規模、留学への取り組みも異なり、対象の大学の学生とは、留学に関する意識も異なっていることが考えられる。そのため、今回、群馬大学の大学生を対象に、留学に関する意識調査を実施することとした。

1. 2. 研究目的

本調査では、群馬大学の学部1年生に対して留学に関する意識調査を実施し、過去の留学経験や留学に関する考え方、また、大学に求める支援についても明らかにすることを目的とした。

2. 調査概要

調査では、主に選択式による質問紙調査票を独自に作成し、配布、回収し分析した。調査概要は以下の通りである。

質問紙の構造：Ⅰフェイスシート（学生の基本事項及び過去の海外経験）、Ⅱ留学への興味関心、Ⅲ留学・海外派遣の制度的支援について、意見を求めた。

調査時期：2016年12月～2017年1月

調査方法：質問紙調査法

調査協力者：群馬大学に在籍する学部1年生全員（理工学部・医学部・教育学部・社会情報学部）に対し、調査票を配布回収した。配布の際、理工学部に関しては専任の英語教員の協力を得て、授業内配布回収を実施した。その他の学部については、担当する英語教員が非常勤講師を含め多数であるため、授業内での配布回収はせず、学内事務担当者から学生へ直接メールで調査協力を依頼し、オンラインでの回答を求めた。その結果、理工学部の回収率は82%、495名であったのに対し、オンラインで回答を求めた他学部の回収率は医学部32%、教育学部18%、社会情報学部31%と50%に満たない回収率となった。そのため、本調査では理工学部のデータを使用し、理工学系大学生の傾向を分析することとした。

なお、フェイスシートにより収集した調査協力者の内訳は表1のとおりである。

表1 調査協力者内訳

単位：人

性別	男 (373) 女 (120) 無回答 (2)
英語力	英検3級 (28) 英検準2級 (30) 英検2級 (26) 英検準1級 (0) 英検1級 (0) TOEIC 0-395 (76) 400-495 (92) 500-595 (45) 600-695 (28) 700-795 (7) 800-895 (1) TOEFL 42-71 (2) 72-94 (0) 95-120 (0) TOEFL ITP 300-395 (3) 400-495 (3) 500-595 (8) 600-695 (2)
海外渡航歴	有 (40) 無 (454) 無回答 (1)
渡航目的	学校主催修学旅行 (31) 県・市町村派遣研修 (3) 親の海外派遣に伴う滞在 (2) その他 (4)
渡航先国	アメリカ (6) カナダ (6) イギリス (5) オーストラリア (7) ニュージーランド (4) マレーシア (1) その他・無回答 (11)

調査協力者は、学部特性により男子学生が女子学生より多く、海外渡航経験のある学生は40人(8%)であった。また、そのほとんどが学校主催の修学旅行で、渡航先国も、欧米の国々に偏っていることがわかった。

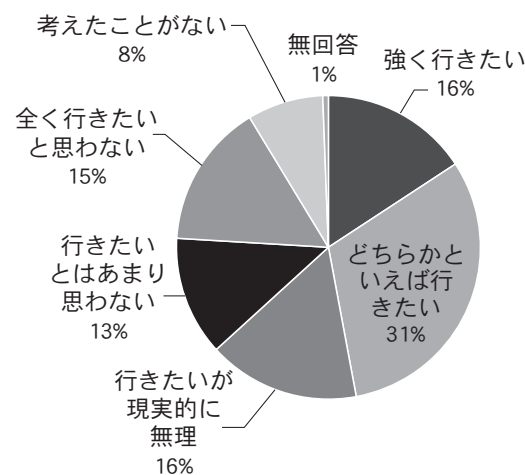
3. 調査の結果

ここでは、本調査により得られた回答の傾向を分析する。3.1では留学への興味関心について、3.2では留学・海外派遣の制度的支援について述べる。

3.1. 留学への興味関心

(1) 留学希望 (調査票質問番号Q1)

在学中に留学をしたいかどうかをたずねた。その結果、47%が「強く行きたい」、「どちらかといえば行きたい」と回答しており、約半数の学生に留学に積極的な姿勢が見られた。一方で、「行きたいとはあまり思わない」、「全く行きたいと思わない」と回答した学生も28%と全体の3割近くいることがわかる。さらに、着目したいのは、「行きたいが現実的には無理だと思う」という回答が16%、「考えたことがない」という回答も8%あり、大学側の支援や働きかけによって留学についての考え方が変わる可能性がある学生もいることがわかった(グラフ1)。



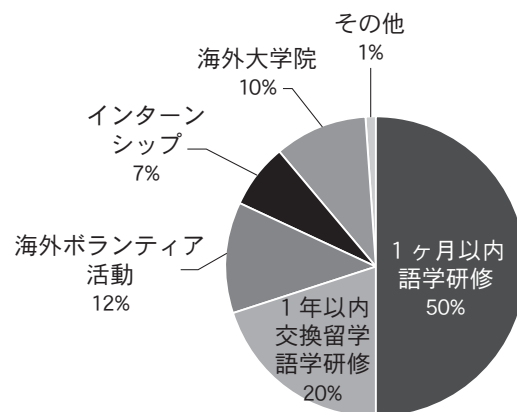
グラフ1 留学希望

n=495

(2) 希望する留学形態 (調査票質問番号Q2)

次に、希望する留学形態について、(1)で、強く行きたい、どちらかといえば行きたい、行きたいが現実的には無理だと思う、と回答した学生318名に回答を求めた。その結果、全体の50%が1か

月以内の短期的な語学研修を希望していることがわかった。一方で、20%の学生が1年以内の交換留学を希望しており、一定数の学生が中・長期の留学を希望していることも明らかになった。その他の留学形態についてはそれぞれ10%以下であった。さらに、留学形態の中で、現在群馬大学では大学としての支援は実施していない「海外インターンシップ」と「海外ボランティア活動」について学生の考えをたずねた。「海外インターンシップ」に興味があると答えた学生は7%（23名）であった。希望先はアメリカ、イギリス、イタリア、フランスなど欧米諸国が中心で、理工学系の専門分野である、「エンジニア」「生物学系」「宇宙関連」「IT 関連」等の企業でのインターンを希望していた。希望する期間については1週間から半年以上と、個人差が大きかった。また、「海外ボランティア活動」に興味があると答えた学生は40名（12%）であった。希望するボランティア活動については、「農作業や環境保護など自然と関わる活動」が最も多く、さらに「学校での教育支援など教育活動」「子ども、高齢者、障がい者支援など社会福祉活動」「建設・修理など建設に関わる活動」「文化芸術に関わる活動」の順に多かった。希望するエリアについては、オーストラリアやフランスといった欧米圏と、マレーシア、ベトナムなど東南アジア諸国やアフリカ地域など欧米圏以外をあげている学生が半数ずついた。期間については1～2週間の超短期を希望する学生が多かったが、数名の学生が半年以上の活動を希望していた。

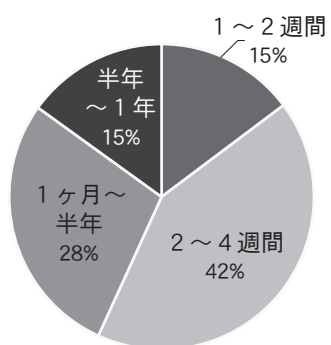


グラフ2 希望する留学形態 n=318

(3) 希望する留学期間及び時期 (調査票質問番号Q3・Q4)

表2 留学希望時期

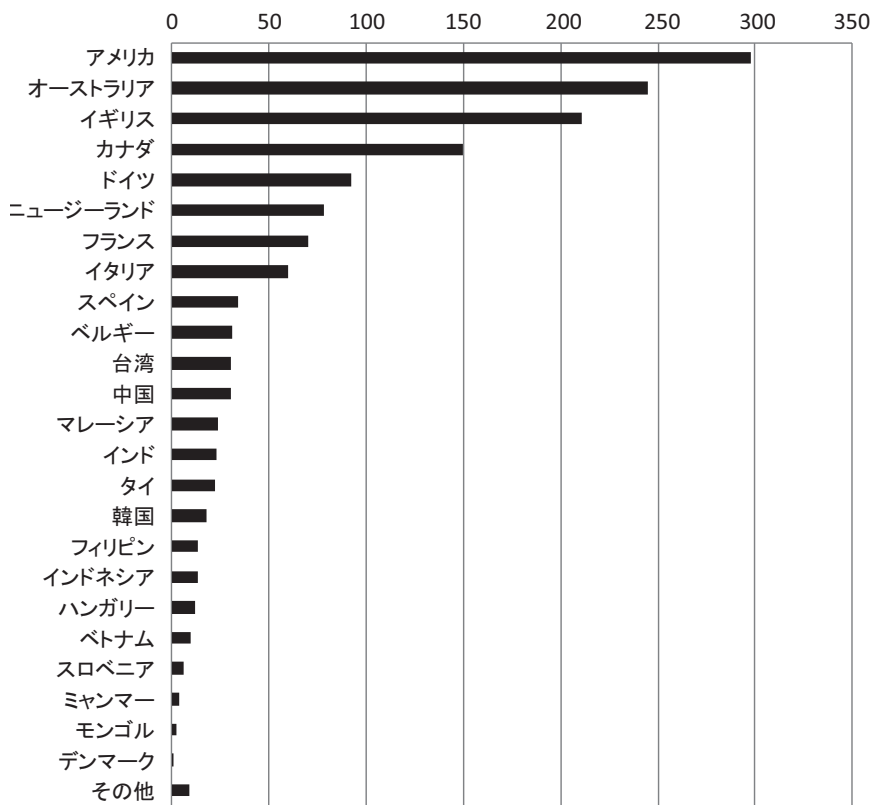
時期	希望者数
1年夏休み	112
1年春休み	61
2年夏休み	113
2年春休み	64
3年夏休み	39
3年春休み	32
4年夏休み	8
4年春休み	11
大学院生	32
いつでも	54



グラフ3 留学希望期間 n=318

留学の期間については、57%の学生が1ヶ月以内の短期的な留学を希望している。一方で、43%の学生はより長期の留学を希望しており、そのうちの15%は半年を超える留学を希望している。留学の時期については、表2のとおり、学部1、2年次の夏休みに希望が集中しており、3年次以降は急激に減少することがわかった。

(4) 希望する留学先 (調査票質問番号Q5)

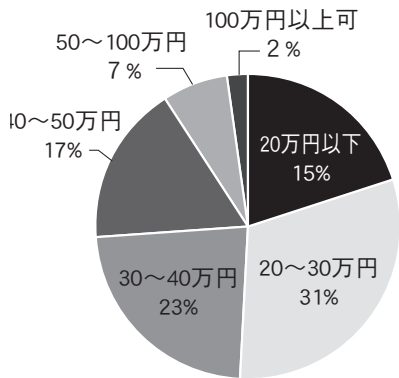


次に、留学してみたい国と地域について回答を求めた(複数回答有)。その結果、第1位から4位までが英語圏の国であり、また、10位までが欧米諸国であった。11位以降のアジアへの留学希望には台湾、中国をはじめ、マレーシアやタイといった、本学ですでに様々な派遣プログラムが実施されている国や地域があげられていた。

グラフ4 留学希望国

n=318

(5) 留学費用及び宿泊形態 (質問票番号Q6)



グラフ5 留学にかけられる費用
n=318

次に、留学にかけられる費用についてたずねた。その結果、51%の学生が航空費なども含む総額で30万円以下と回答していた。現在、本学で実施しているアメリカ、イギリス、オーストラリア等への1ヶ月の語学研修費用は40万円から50万円程度であり、その費用を出せると答えた学生はわずか26%に過ぎない。

さらに、宿泊形態についても希望形態をたずねた。その結果、ホームステイ(179名)、学生寮(114名)、シェアハウス(23名)、ホテル(51名)その他(4名)となり、ホームステイと学生寮が圧倒的に多かった。

(6) 海外留学の目的とメリット (調査票質問番号Q7)

次に、海外留学の目的と留学で得られるメリットについてたずねた。その結果、いずれも語学力の向上が1位となり、2位3位は入れ替わりでコミュニケーション能力の向上、異文化体験により視野が広がることとなっている。しかし、目的ではその後、「就職や進路に生かす」「専門知識を身に付ける」といった知識の獲得や就職へのインセンティブが上位であったのに対し、学生の考える留学で得られるメリットは、行動力が付くことや外国人の友人ができることなど、自己成長や友人関係形成が

上位となっており、それ自体が目的ではなくとも、留学のメリットとして学生が認識し、留学によって得られるものと考え、期待している事がわかる。

表4 留学の目的と留学で得られるメリット

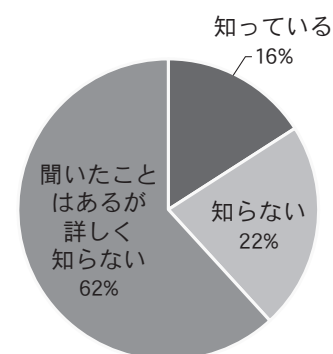
留学の目的		留学のメリット（複数回答）	
語学力向上	170	語学力向上	294
異文化体験	62	コミュニケーション能力向上	262
コミュニケーション能力向上	50	異文化に触れ視野広がり人生豊かに	213
就職活動や進路に生かす	23	行動力自信独立心が身につく	165
専門知識を身に付ける	16	外国の友人ができる	142
行動力自信独立心をつける	14	他とは違う経験	108
国内外の就職可能性を広げる	9	就職活動や将来の進路に有利	96
自分自身を見直す	7	自分自身を見直す	67
忍耐力精神力を強くする	6	専門知識が身につく	54
他と異なる経験	5	忍耐力・精神力が強くなる	57
外国人の友人を作る	4	国内外での就職可能性	54
その他	5	その他	1

3. 2 留学・海外派遣の制度的支援

留学・海外派遣の制度的支援に関する以下の項目に関しては、調査対象者495名に対し回答を求めた。その結果をまとめる。

(7) 留学制度の認知度（調査票質問番号Q8）

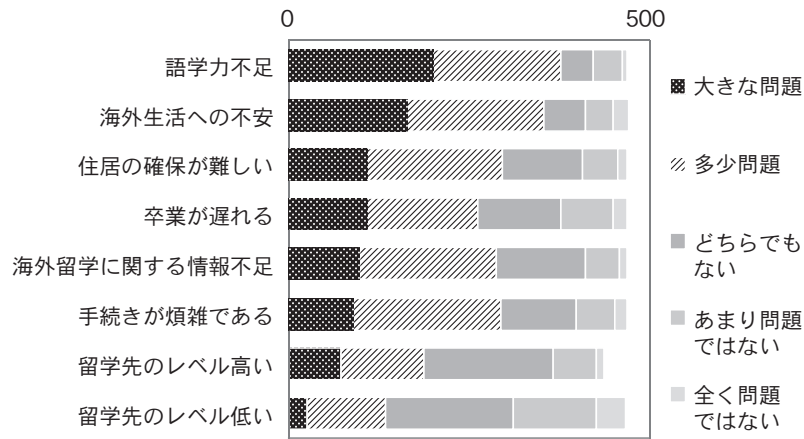
大学で実施している交流協定校との交換留学制度の認知度についてたずねた。その結果、「聞いたことがあるが詳しくは知らない」が62%、「知らない」が22%となっており、十分な情報を得ているとは言えない状況であることがわかった。



グラフ6 交換留学制度の認知度 n=495

(8) 留学の阻害要因（調査票質問番号Q9）

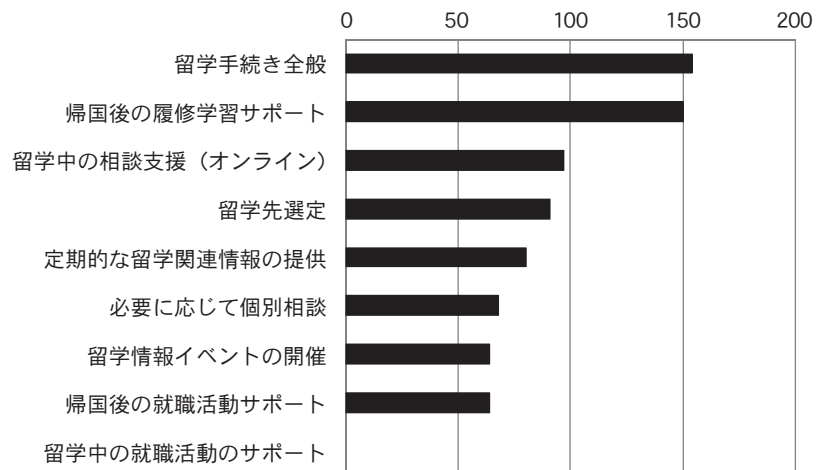
次に、留学を阻害すると思われる要因について、留学を考えるときそれぞれの項目がどの程度問題となるかをたずねた。その結果、留学にかかる高額な費用、学生自身の語学力の不足、それに加えて、海外生活に対する不安が、群馬大学理工系大学生の留学阻害の主な原因であることがわかった。特に経済問題が留学を阻む最も大きな要因となっている。



グラフ7 留学阻害要因

n=495

(9) 大学に求めるサポート (調査票質問番号Q10)

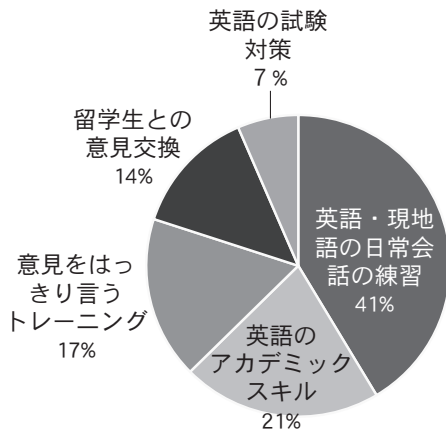


グラフ8 大学に求める支援

n=495

さらに、留学前、留学中、留学後の各段階において必要だと思う支援についてたずねた。その結果、全体で最も多かったのは「留学手続き全般」だった。留学前の支援については、留学先の選定や留学情報を定期的に提供することを求めている。また、留学中は、オンラインも含めた相談に対するニーズが高い。さらに、帰国後は、速やかに本学での学習に復帰するために履修や学習の相談が必要とされていることがわかった。

(10) 事前研修 (調査票質問番号Q11)



グラフ9 希望する事前研修 n=495

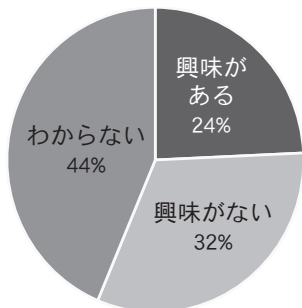
次に、大学が留学参加予定者に対し、留学前に行ってほしい研修内容についても意見を聞いた。

その結果、41%の学生が、英語や現地語の日常会話の研修を希望しており、次に英語のアカデミックスキル、意見をはっきりと言うコミュニケーショントレーニングの順となった。

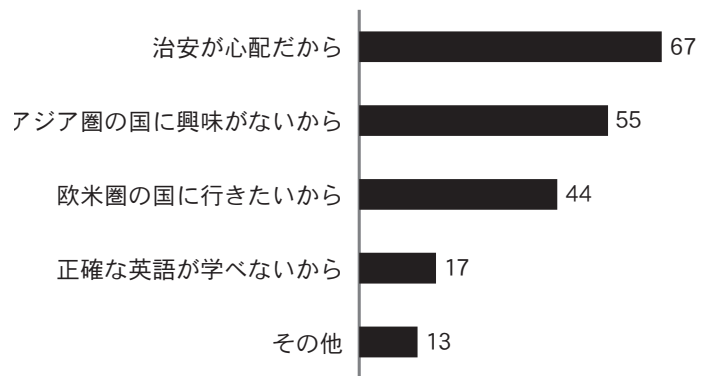
(11) 新規プログラム アジア諸国での英語研修 (調査票質問番号Q12)

最後に、今後新規にアジア地域での英語研修プログラムを作った場合、参加してみたいと思うかどうかをたずねた。その結果、「興味がある」と回答した学生は24%、「興味がない」と回答した学生は32%、残り44%の学生は「わからない」と回答している。

また、「興味がある」と回答した学生(196名)に、研修先として希望する国や地域をたずねたところ、希望の多い順にシンガポール、マレーシア、フィリピン、タイ、中国、台湾、韓国、インドとなった。一方、興味がないと回答した学生には、その理由をたずねた。その結果、治安の心配を選択した学生が最も多く、また、もともとアジア圏に興味がない、欧米圏以外への留学は考えていないといった回答もあった。



グラフ10 アジア圏での英語研修への興味 n=495



グラフ11 アジア圏での英語研修に興味のない理由

n=196

4. 結果のまとめと考察

ここでは、これまでの調査結果をもとに、前述の「日本人学生の留学に関する意識調査(8大学工学教育プログラム・グローバル化推進委員会第3部会)」(以下「8大学」)の結果とも比較しながら

ら、本学の現状の考察と必要な支援について指摘したい。

4. 1. 結果のまとめ① 留学への興味・関心について

今回の調査回答者の50%弱が留学に対して積極的な意識を持っており、そのうちの約半数が1か月程度の語学研修を希望していることがわかった。これは、「8大学」の調査で約半数の理工学系大学生が留学に対して積極的であったことや、全体の60%程度の理工学系大学生が1か月程度の短期留学を希望しているとする内容と類似した結果となった。しかし、本学では半年から1年の交換留学を希望する理工系大学生がやや多く、海外ボランティア活動に興味を持つ学生もいた。一方で8大学の理工学系大学生のうち、約20%が大学院留学を希望しているのに対し、本学の理工学系大学生のうち大学院留学を希望する学生は10%にとどまっている。これは、留学に対するニーズが多様化していることや、本調査の対象学生が理工学部1年生に限られていたため、大学院進学自体が未定である学生が多いことも理由として考えられる。留学先希望国については、上位10カ国がすべて欧米諸国であり、留学に関しては欧米中心の考え方が根強く、アジアへ目を向ける学生数は未だ少ないことがわかる。この結果も「8大学」の調査結果において85%が欧米諸国への留学を希望していたという結果と類似していた。しかし、オーストラリアへの興味関心については結果が異なっている。「8大学」ではアメリカ、イギリスを希望する学生が6割で、オーストラリアはわずか8%程度とされているのに対し、本学の理工学系大学生の留学希望先の第2位となっている。これは、本学において、近年、語学研修先、交換留学先として、オーストラリアにおける協定校の開拓や連携に努力してきており、様々なプログラムが実施されていることから学生の希望先として人気の地域となっていることが考えられる。

4. 2. 結果のまとめ② 留学の制度的支援について

本学の学生が留学を考えるときに阻害要因となっているものは、物理的な側面としての「経済的負担」、能力的な側面としての「語学力の不足」、そして心理的な側面としての「海外生活への不安」の3つであることが明らかになった。これは、「8大学」とほぼ同様の結果となった。また、本調査では、大学に求める支援、留学前に受けたい研修内容についてもたずねた。学生は留学前の支援として「留学手続き全般」、留学中の「相談支援」、帰国後の「履修・学習サポート」を特に求めている。また、事前研修に関しては圧倒的に英語や現地の日常会話の練習に対する希望が多く、学生の「語学力の不足」に対する不安をサポートする支援が必要とされていることが明らかになった。

5. 支援策と今後の課題

5. 1. 具体的支援策①留学情報の確実な伝達と不安の軽減

4の結果を踏まえ、大学側ができる支援を考えると、まず、留学情報の発信、周知がある。交換留

学に関する情報について8割近くの理工系大学生が知らない、よく知らないと回答していることを見ても、現時点ではまだ十分であるとは言えない。また、大学に求める支援において、留学に関する定期的な情報の発信があげられていた。これらのことを考えると、本学で毎年実施している群馬大学留学フェアや、留学プログラムの説明会等、留学関連イベントは継続しつつ、大学側が継続的に留学の情報を収集、発信し、学生が容易に受け取れる仕組み作りが必要とされている。留学に関するメールマガジンの発信や、メーリングリスト、SNSを用いた情報発信など、デジタル機能を強化した情報発信が今後の課題となるだろう。

さらに、物理的な経済問題や学生自身の能力に関わる語学力不足に加え、留学に対する不安が留学阻害要因の一つとなっていることが明らかになっている。本学では、国際教育・研究センターの教員が留学相談にも随時対応しているが、理工系大学生の留学に対する様々な不安を軽減するために、英語学習相談、帰国後の履修相談や、将来の就職に関する相談なども重要になってくるだろう。英語教育部門、学部、研究科、キャリアサポート部門など学内の様々な部局との連携を含め、大学全体で学生を支援する必要がある。今後は、各部局と連携を図り、学生の不安を軽減することができるような留学相談の枠組みが求められている。

5. 2. 具体的支援②多様なプログラムの開発と異文化理解の促進

本調査によって、群馬大学における理工系大学生の留学に関する希望が一部明らかになった。まず、約50%の理工系学生が留学に積極的であり、中でも短期の留学を希望している学生の方が半数を占めること、さらに、留学で得られるものとして、語学力の向上以外にも異文化理解、コミュニケーション能力の向上、行動力を身につける、友人作り、就職活動時のメリット等をあげている学生が多いことなどがある。今後は、これらの結果をもとに、異文化理解、現地の人々との交流を中心とした短期プログラムや、ボランティア活動やインターンシップを中心としたプログラムを新たに開発していくことも考えられる。

また、理工系大学生にとって、最も留学を躊躇する原因に経済的な理由があることから、学内における奨学金制度を充実させるとともに、より低価格で実施できる英語研修プログラム、異文化理解プログラムの開発が望まれている。そのためには、学生が希望する欧米圏への留学より、アジア圏等での留学、研修が現実的である。星野(2014)は、東南アジアにおける英語使用の現状と、東南アジアに精通することの意義、つまり、就職活動における優位性などが学生にとって不明確であり、そのため、東南アジア留学の選択が広がらないと述べている。アジア圏の国々に関する正確な情報発信と、興味関心を持つための魅力的なプログラム開発、また、大学内の留学生を含め、欧米圏以外の地域に興味を持つきっかけ作りが大学内で行われることが重要であろう。

<注記>

1. 「8大学」における調査では以下のような傾向が明らかになっている。

1) 全学年を通して留学経験のある学生は2%である。2) 約半数の学生が留学に興味を持っている一方3割の学生が留学に興味がないと回答している。3) 行きたい留学先国についてはアメリカが4割、イギリス2割で6割近くを占めており、全体の85%が欧米諸国を希望していた。4) 留学を阻害する要因としては「費用」「語学力の不足」「海外生活への不安」の順に高くなっていた。

<参考文献>

- 奥山和子 (2015) 「もうひとつのグローバル教育について: 留学に対する大学生の意識調査から」『神戸大学留学生センター紀要』21,67-85.
- 岩城奈巳・野水勉 (2010) 「名古屋大学生と海外留学—全学教養科目「現代世界と学生生活」課題レポートから見えてきたもの—」『名古屋大学留学生センター紀要』7, 17-22.
- 8大学工学系プログラム・グローバル化推進委員会 (2009) 「日本人学生の留学に関する意識調査」第3部会
- 星野晶成 (2015) 「名古屋大学生の東南アジア留学に対する意識調査」『名古屋大学国際教育交流センター紀要』33-40.
- 掘田泰司・船津秀樹 (2005) 「留学に関する学生の意識と日本の留学生策の発展」『広島大学留学生教育』第9号, 1-13.
- 森宏一郎・児玉奈々 (2012) 「滋賀大生の留学志向に関するアンケート調査分析」『滋賀大学経済学部 Working Paper』174, 1-31.
- 横田雅弘・小林明 (2013) 『大学の国際化と日本人学生の国際志向』学文社

<参考ウェブサイト>

- 文部科学省グローバル人材育成推進会議 最終報告 (2013)
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shitu/sangaku/1301460.htm
- 官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム (2013)
http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/tobitate/index.htm
- 文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業 (2014)
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/1319596.htm

<参考資料>

群馬大学における大学生の海外経験・留学に関する意識調査 2016

国際教育・研究センター留学・海外派遣基礎調査チーム

群馬大学国際教育・研究センターでは、様々な海外派遣、海外留学の支援を計画、実施していますが、今後、より充実した海外留学の支援のために、現在の群馬大学生における留学に対する意識調査を行うことになりました。率直なご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。

●以下の質問項目について下線のあるものは直接記入し、選択項目のあるものはチェック を付けてください。自由記述欄には自由に意見をお書きください。

1. 基本項目

① _____学部_____学科_____年生

② 男性 女性③ 大学入学前留学経験 有 無有と回答された方→③-1 (留学形式) 学校の主催する修学旅行など短期の研修市町村の実施する姉妹都市短期留学両親の海外勤務に伴う海外滞在その他 (具体的に:お書きください)③-2 (留学期間) 1か月以内 1か月～半年 半年以上③-3 (留学先) アメリカ イギリス オーストラリア カナダその他 (具体的に:)④ 大学入学後留学経験 有 無有と回答された方→④-1 (留学形式) 語学留学・短期研修 交換留学 インターンシップ海外ボランティア その他④-2 (留学期間) 1か月以内 1か月～半年 半年以上④-3 (留学先) アメリカ イギリス オーストラリア カナダ 中国その他 (具体的に:)

⑤ 英語能力を示すスコアを持っていたら () に記入してください。

TOEIC () 英検 () 級 IELTS () TOEFL PBT ()

TOEFL IBT () TOEFL ITP ()

その他 (具体的に:)

2. 留学への興味関心

⑥ あなたは、大学在籍中に短期留学・長期留学等で海外へ行ってみたいと思いますか？

 強く行きたいと思う どちらかといえば行きたい 行きたいとはあまり思わない 行きたいと思っているが、現実的には行けないだろうと考えている 行きたいとは全く思わない 考えたことがないのでわからない

↓ (⑥1~4に を付けた方は、次の⑦~⑩質問にお答えください。5・6と答えた方は最後の⑩の質問にのみお答えください)

⑦ どのような形式の留学に関心がありますか？以下の中から関心のある項目に をお付けください。(複数回答可)

- 1カ月以内の語学留学・短期研修
- 1年以内の交換留学・語学留学
- 海外大学院への留学
- 海外企業へのインターンシップ ↓⑦-1、⑦-2、⑦-3にお答えください。
- 海外ボランティア活動 ↓⑦-4、⑦-5、⑦-6にお答えください。
- その他(具体的に: _____)

⑦-1 ⑦の質問で、インターンシップに参加したいと答えた方にお聞きします。

どのような職種・企業でインターンを行いたいですか？具体的にお書きください。

⑦-2 インターンシップに参加するとき行ってみたい国がありますか？もしあれば具体的な国名をお書きください。

⑦-3 インターンシップに参加するとき、どのくらいの期間プログラムに参加したいと思いますか？

- 1~2週間 2週間~1か月以内 1か月~半年 半年以上

⑦-4 ⑦の質問で、ボランティア活動に参加したいと答えた方にお聞きします。

どのようなボランティア活動に参加したいですか？

- 学校での教育支援など教育活動 農作業や環境保護など自然と係わる活動
- 子ども、高齢者、障がい者支援など社会福祉活動 建設・修理など建設に関わる活動
- 芸術や文化に関わる活動

⑦-5 ボランティア活動に参加するとき行ってみたい国がありますか？もしあれば具体的な国名をお書きください。

⑦-6 ボランティア活動に参加するときどのくらいの期間プログラムに参加したいと思いますか？

- 1~2週間 2週間~1か月以内 1か月~半年 半年以上

⑧ 大学間や学部間での交換協定を利用した海外大学への交換留学制度について知っていますか？

- 知っている 聞いたことがあるが、詳しい内容はわからない 知らない

⑨ どの国に留学したいですか？あてはまるものすべてに を付けてください。

※海外旅行ではなく、「留学」したい国を選んでください。

- アメリカ イギリス オーストラリア カナダ ニュージーランド イタリア フランス ドイツ
- スペイン ベルギー スロベニア ハンガリー 中国 台湾 韓国 タイ ベトナム マレーシア
- インドネシア フィリピン ミャンマー モンゴル インド
- その他(具体的に: _____)

⑩ 1回の留学にかけたい期間はどのくらいですか？

- 1~2週間 2~4週間 1か月以上~半年以内 半年以上~1年以内 1年以上

⑪ あなたにとって留学に行くのが可能な時期、都合のよい時期はいつだと思いますか？

- 1年生の春休み 1年生の夏休み 2年生の夏休み 2年生の春休み 3年生の春休み 3年生の夏休み
- 4年生の春休み 4年生の夏休み 大学院生になってから いつでもよい

- h. 海外留学に関する情報が 1. 2. 3. 4. 5.
不足している
- i. 海外生活に不安がある 1. 2. 3. 4. 5.
- j. その他（具体的に： _____）

3. 留学に関する支援について

⑰ 留学に関して大学にサポートしてもらいたいことは何ですか？3つ選んでください。

- 定期的な留学関連情報の提供（例えば、電子メールの配信）
- 留学フェアの実施など留学情報を得ることができるイベントの開催
- 留学先の選定
- 留学手続全般
- 留学中の就職活動のサポート
- 留学中の相談支援（電子メールやオンラインシステムなどを利用）
- 帰国後の履修・学習サポート
- 帰国後の語学力維持・語学力向上のためのプログラム実施等
- 帰国後の就職活動のサポート
- どのプロセスということではなく、必要に応じて個別相談
- その他（具体的に： _____）

⑱ 留学前に大学で研修を受けることができるとしたらどのような研修を希望しますか？

以下の中から2つ選んでください。

- 英語や現地の言語の日常会話の練習
- 英語のアカデミックスキル（講義を聞いたりレポートを書いたりする技術）
- 英語の試験対策（TOEFL/IELTS など）
- 自分の言いたい意見をはっきりと言えるようになるコミュニケーショントレーニング
- 留学生との意見交換やコミュニケーション練習
- その他（具体的に： _____）

⑲ もし、短期英語研修を欧米圏ではなくアジアの英語使用圏の国（フィリピンやマレーシア、シンガポール等）でより安い価格でプログラムを実施したら、あなたは参加してみたいと思いますか？

- はい（→具体的にどこの国がいいですか？ _____）
- いいえ わからない

⑳ ⑲で「いいえ」と答えたかたは、なぜ希望しないのかその理由を以下の項目から選んで下さい。

（複数選択可）

- アジア圏の国に興味がないから
- アジア圏の国では正しい英語が学べないと思うから
- 治安が心配だから
- 欧米圏の国に行きたいと思っているから
- その他（具体的に： _____）